

よもやま歴史教室

2026

さまざまな歴史を学習することにより、心に栄養を与え、豊かに生きるヒントをみつけていただきたい。
皆様、ぜひご参加ください。

第1回

令和8年
5/16(土)
午後2時～

良寛と一休の生き方

— 生死を超えた男と反逆風狂の男 —

講師 日本文学研究家 かわはら とくこ 河原 徳子 先生



第2回

6/20(土)
午後2時～

古代伊勢のブランド品 ・伊勢水銀

講師 三重県総合博物館調査・資料情報 課長 ほしの としゆき 星野 利幸 先生



第3回

7/18(土)
午後2時～

壬申の乱と北勢地域

— 『日本書紀』を読み解く —

講師 四日市市立博物館学芸員 しの まさし 篠 昌志 先生



【会場】 菰野町庁舎4階会議室

※東玄関よりお入りください。当日、他の階には入れません。

令和8年度より
【受講料】 各回 **300** 円 (高校生以下無料)

■当日受付にて、住所、氏名、連絡先のご記入が必要です。

■お支払いは現金のみです。お釣りのいらないようご協力をお願いいたします。

※講演内容等は、予告なく変更となる場合がございます。

※天候等諸事情により中止や変更となる場合があります。

中止・変更等は、菰野町役場 HP 等でお伝えいたします。

【共催】 菰野町よもやま歴史サークル 菰野町 (担当課:コミュニティ振興課 TEL 391-1160/FAX 328-5995)

各回
詳細は
裏面へ

令和8年

5/16(土)午後2時～

講師 日本文学研究家

河原 徳子 先生

講師紹介

徳島市生まれ。「朗読文学サークルパティオ」(5部門)主宰(パティオ読書会/『源氏物語』を原文で読む/文章教室「円虹」/よっかいち朗読文学の会/文章教室『言の葉』)。

現在、三重県生涯学習センター、その他さまざまな市町村で、文学講座講師を務める。三重県総合文化センターにて、2008年より「源氏物語を原文で読む」講座をスタート。

以後、『平家物語』『枕草子』『徒然草』その他の古典文学作品を講義する。菰野町公民館教室「文学講座」講師。

講演要旨

江戸時代を代表する僧侶といえば、まず良寛さんを思い浮かべる方が多いでしょう。越後の片隅で、詩歌を詠み、書をよくし、村の子どもたちと手まりをつけて遊ぶ、微笑ましいお爺さん……そんなイメージが浮かびます。しかし、父親の自殺や、乞食僧の貧苦の生活など、良寛さんの一生は、決して安穏なものではありませんでした。オノレ自身を「大愚」と称した良寛の真実の森に分け入ってみましょう。

もう一人、日本で最も有名な僧侶ともいえる一休さんはどんな人だったのでしょうか。こちらは良寛さんの大先輩で室町時代の禅僧です。一休さんはとんち話で有名ですが、実際の一休はそれとは程遠い人だったようです。天皇の御落胤として生まれながら、放浪の人生を送った人、二度の自殺未遂、そして晩年には女性との交情もありました。

一休はオノレを「狂雲」と称しました。芸能人や文化人と交流しつつ、まさに反逆の禅僧の人生を生き抜いた人なのです。

「大愚」と「狂雲」——そのあゆみを比較しつつ、文学作品を読み解きながら、ふたりの人生を追ってゆきます。

良寛と一休の生き方

—生死を超えた男と反逆風狂の男—

6/20(土)午後2時～

講師 三重県総合博物館 調査・資料情報課
課長 星野 利幸 先生

講師紹介

1968年愛知県生まれ。

名古屋大学大学院文学研究科博士課程前期修了。1996年に三重県教育委員会博物館準備室に採用後、三重県立博物館、斎宮歴史博物館、三重県総合博物館に学芸員として勤務。

専門は日本古代史。斎宮歴史博物館では、特別展『斎王のおひざもと』『賀茂斎院と伊勢斎宮』『よみがえる斎宮』などを担当。『三重県史』の編さんにも参加。現在の三重県総合博物館では、三重の名所をテーマとした企画展などを担当している。

古代伊勢のブランド品 ・伊勢水銀

講演要旨

現在の多気町丹生で産出していた鉾物の辰砂は、精製すると水銀になります。古代、辰砂は赤色顔料「朱」として、水銀は主に薬品、鍍金(金メッキ)に用いられました。

伊勢国は水銀の主要産地であり、『延喜式』によれば、水銀を都(政府)に納めることが課されていた唯一の国でした。

鎌倉時代、東大寺の大仏再建の折には、伊勢から納められた水銀が大仏の鍍金に用いられたことが知られていますが、奈良時代の大仏建立にも伊勢水銀が用いられた可能性が高いと考えられています。

古代の“三重ブランド”というべき伊勢水銀の歴史をさまざまな史料をもとに紹介します。

7/18(土)午後2時～

講師 四日市市立博物館学芸員
篠 昌志 先生

講師紹介

愛知県江南市出身。

平成29年愛知教育大学教育学部現代学芸課程国際文化コース卒業、令和2年神戸大学大学院人文学研究科社会動態専攻日本史学博士課程前期課程修了。令和8年同大学院博士課程後期課程退学。令和2年6月から令和5年3月まで多治見市文化財保護センター学芸員として勤務ののち、令和5年4月から四日市市立博物館学芸員として勤務。専門は日本古代史

壬申の乱と北勢地域

—『日本書紀』を読み解く—

講演要旨

日本古代史最大の内乱である壬申の乱。天智天皇の死後、672年に大海人皇子と大友皇子が皇位継承をめぐる激しく争いました。乱の最中、大海人皇子は北勢地域を急いで駆け抜けて美濃へと向かいますが、その道中で数々の印象的な行動をしました。これらの行動は『日本書紀』に詳細に記されており、記録を読み解くことで大海人皇子の考え方や『日本書紀』編纂時の意図を理解することができます。本講演では、『日本書紀』の記述を基に、壬申の乱と当地域との関係を明らかにします。